選考委員長講評

梅光学院大学教授 樋口 紀子 委員長

応募された43のいずれの団体も、コミュニティ活動、ボランティア活動、NPO活動と、女性が中心となって、さまざまな活動に取り組んでおられます。しかも、それぞれの団体が積極的かつ自主自発的に活動を展開され、地域社会にむけて活力を高め、広めておられる姿にあらためて感動しました。



今回は一次選考で23の団体に絞り、選考基準に基づき各分野の優秀賞を決定した後、優秀賞の中から最優秀賞を決定しました。 最優秀賞、優秀賞団体の授賞理由は以下の通りです。

○安岡ひまわりレディース(最優秀賞・山口県知事賞)

男性が中心になりがちな農業の分野で女性が中心となり、「減農薬」「軽量野菜」「地域伝統野菜の継承」という女性の視点で農業に取り組み、消費者とコミュニティを大切にしている姿勢が評価されました。安岡という限られた地域内で活動している団体であっても、いかにその地域によい影響を与えることができるかという地域限定型の一つの事例として、また今後同じような活動を行なおうとする団体のモデルケースとなりうるという点が評価されました。なお、優秀賞に選ばれた団体の中で、その活動内容が独自性という点で高く評価されたこと、生協と「協働」という視点から活動を共にできるという点で最優秀賞となりました。

○NPO 法人 こどもステーション山口(優秀賞・朝日新聞社賞)

32年間という長きに亘り、子どもたちが芸術・文化に広く触れることによって、社会体験を積み、豊かな子ども時代を送ることを目的として活動していることが評価されました。また、会員も900名と多く、広く支持されていること、その構成年齢も乳幼児(子育て支援)から高校生まで(青少年育成事業)と幅広いことなども受賞の理由です。しかも、これだけの活動をしているにもかかわらず、今まで公の機関から賞を受けたことがないということもあり、そのような団体に光をあてるという意味においても優秀賞を授与したいと思います。

○やまぐちネットワークエコー(優秀賞・yab 山口朝日放送賞)

男女共生社会に向けての学習機会の提供と、地域リーダーの資質向上に努めることを目的として活動しているという、その活動の特殊性が高く評価されました。また、ただ個人に学習の機会を提供するのではなく、それを通して個々人がネットワークを作ることができるようにと配慮している点も受賞の理由です。さらに、活動対象者が大人だけではなく、子どもにまで及ぶというその幅広さも評価されました。

○山口県点訳音訳ボランティア連絡会(優秀賞・山口新聞社賞)

1960 年代から 38 年間視覚障害者のために活動を続けてきたということ、その活動が山口県内全域にわたり、音訳・点訳ボランティア団体や個人のボランティアに対して情報交換の場を提供したり、相談窓口を設けたりとネットワーク作りを行ない、現在 30 の会の調整役となっていることが高く評価されました。また、これまでの県の福祉事業への貢献度も評価された点です。今後は「福祉」というテーマでコープやまぐちと協力・連携できることを期待しています。

最優秀賞(山口県知事賞) 安岡ひまわりレディース

代表者 田崎育子 (下関市)

活動の動機・目的

もともとは、ひまわりのように空を仰ぎながら、どうせなら明るくのびのびと農業をしようと、仲間づくりと親睦を深めることを目的に発足した農協若妻会「ひまわり会」が母体。その中で女性が主体となった楽しい農業がしたいとの思いから、「安岡レディース」を結成。自分達で作ったものを自分達で売る、グループでの共販出荷体制を模索しながら確立。子育て奮闘中のメンバーの話の中から、子供たちへ安全安心な食べ物を提供したいとの思いが強まり、組織を「安岡ひまわりレディース」に改編し、従来の仲間づくりや交流活動に加えて安全安心な農作物を栽培するための、各種学習会(有機農産物生産、環境保全型農業の推進等)を積極的に実施。

活動の内容

- ・ 女性でも減農薬で比較的楽に栽培できる、軽量野菜(パセリ、モロヘイヤ、カキチシャなど) 7品目を生産出荷。出荷する商品にはネーミングや規格、袋のデザインも話し合って決定。
- ・ 減農薬野菜作りのための定期的な勉強会を月1回開催 小ねぎ部会、パセリ部会はエコファーマーに認定され、他の品目も手続きを進めていく
- ・ 地元の小・中学校などが行う稲作体験学習支援を行い、地元への愛着心や食の安全安心、食の大切さを伝えている。老人ホームや病院へ出張朝市。
- · イベントや朝市等で消費者と交流、農業や農産物のPRや調理法を伝授。
- ・ グループ員の交流の為のサロンとして、「ひまわり夢サロン」を設置、仲間づくりや地域住 民との交流の場となっている。七月は七夕交流会、1月に七草粥交流会
- ・ 県伝統野菜(カキチシャ)づくりと伝統食文化の継承活動(試食販売、出荷袋ヘレシピ掲載)

これからめざしたいこと

農業生産による経済的な豊かさだけでなく、女性の視点での生きがいや心豊かな生活の実現を目指した地域づくり活動を行う。

- ① 農を通して食の安全・安心を消費者や子供たちへ伝える。又食育にもつなげていきたい。
- ② 活用されていない農地の環境整備、景観管理等(コスモス、ひまわりを植える)行い、地域の輪に広げ、皆で農地を守り、食を守っていきたい。その拠点になればいいなと思っている。





少子化对策分野 優秀賞(朝日新聞社 山口総局長賞)

NPO 法人 こどもステーション山口

代表者 山本有希 (山口市)

活動の動機、目的

高度経済成長の中で、子どもたちの遊びの空間・時間・仲間が失われていくことに、危機感をもったおとなが、子どもが想像力豊かに育つことを願い、又子どもの文化環境をよくしようと考え、活動を開始。子どもたちが芸術・文化に触れ、社会参画や社会体験を積むことによって、豊かな子ども時代を過ごすことが出来ることを目的とする。

活動の内容

• 子育て支援事業

乳幼児と保護者の遊びの会(月1回市内3ヶ所)実施 子育てほっとステーションぴーかぶう(平日事務所の1室を開放) 保育スタッフを学校行事・公演・講演会などの会場に派遣

• 青少年育成事業

こどもまつり(異年齢の子どもたちが青空のもとで、たくさんの人たちと思いきり遊びます) 8月のLove&Peace (平和やいのちについて考えよう)

こどもステージ る・リ・フリー (子どもの舞台表現活動)

子どもキャンプ(高校生がリーダーとなって行う、子どもが主役のキャンプ)

• 舞台鑑賞事業

「プロの舞台」「ライブの素晴らしさ」にこだわり、子どもの年齢にあった様々なジャンルの作品の鑑賞を年 10 回程度行っている。

文化事業

子育て講演会、大人の為の舞台鑑賞、あっちこっち de アート (地域の身近な会場での小公演 (3公演7ステージ)

- ・ 広報宣伝事業として、会報を月1回発行し、市民に活動紹介と報告。又 HP で情報を発信。
- ・ 他団体とも一緒に本の読み聞かせ、絵本作家講演、おもちゃと絵本展を開催
- ・ NPO 法人としての事業計画・予算は定期総会において決定。又、小学校区毎のブロックではそれぞれ独自のイベントや遊びを計画し、実行している

これからめざしたいこと

子どもの文化環境をよりよいものにしていくため、より多くの人の輪の広がりをめざすことと、「クリエイティブスペース 赤れんが」の指定管理者に選ばれた事から、子育て+文化に加えて街づくりにもつなげ、さらに広げていきたい。





地域活力・文化向上分野 優秀賞 (yab 山口朝日放送賞) やまぐちネットワークエコー

代表者 西山香代子 (山口市)

活動の動機、目的

女性の社会参加を目的に、山口県教育委員会と山口県立大学がタイアップした、「やまぐち女性カレッジ」の修了生が今後も交流を続けていきたいと言う事で会を発足。目的として、男女共生社会に向けての学習機会の提供を行うとともに、地域のリーダーとしての資質の向上に努める。学習情報の提供や収集、また課題解決に向けての学習活動を行っている。

活動の内容

毎年、会員から「企画実行委員」を募り、25人程度の委員により、企画運営を行っている。 執行部会を毎月1回開催し、各部会リーダーが集まり、進捗状況の共有や情報交換、実施に向け ての予算・調整を行う。

I、女性学講座部会

山口県婦人教育文化会館との共催による「女性学講座」の企画運営を担当。女性たちの活動の歴 史や男女共同参画社会の現実的な課題を学習。学習したことを広く伝えるために具体的な作品に して表現。(オリジナル紙芝居制作・上演、チャレンジはがき制作、朗読劇シナリオ制作・上演)

Ⅱ、企画力・実践力ステップアップ講座部会

参加型ワークショップの手法を使い、少子高齢社会の課題を共有し、解決のための具体的な実践 方法を企画運営する。平成18・19・20年の3年間は「家庭・地域元気アップ講座」を開催。

Ⅲ、生涯学習ネットワーク研究会

県内各地にいる会員の活動を紹介し、団体間の交流を図る。平成18年度は、朗読劇・押し花・折り紙絵本・コマまわしの体験のほかに、小学生を対象としたコミュニケーション力を育てるワークショップを実施。また、講演では「時代が求める団体活動とは〜個と組織のエンパワーメントをめざして〜」をテーマとして、団体間・行政との連携・協働のあり方について全国の先進地の事例を学ぶ。

他に

- ・ 学習と交流の情報誌を年3回発行、学習活動報告書「ECHO」発行
- ・ 平成18年度「日本女性会議 in しものせき」分科会を企画運営

これからめざしたいこと

県域で学習活動をすることのメリットを明確にし、地域を越えた交流・ネットワークを深め、まず大人がパワーを発揮し、世代間の交流を深めたい。更に、「やまぐちネットワークエコー」ならではの学習方法・教材を開発したい。





健康福祉·食の安全分野 優秀賞(山口新聞社賞)

山口県点訳音訳ボランティア連絡会

代表者 梶間和恵 (光市)

活動の動機、目的

山口県内における点訳音訳その他盲人福祉事業に奉仕することを目的とする。また、県内の点訳音訳ボランティアのネットワーク活動を推進していく。

活動の内容

県内の点訳・音訳ボランティア団体また個人ボランティアのネットワークづくり(情報交換・会員の相談窓口)の役目を担っている。点字図書館や全国点字技能士からの情報も発信。

- ○連絡会が主催することは
 - ・ 会員の技術向上のための講習会開催 点訳講習(年2回・内1回は山口県身体障害者福祉センター主催) 音訳講習(年1回)
 - ・年2回の幹事会実施
 - ・ 全国規模の講習会にも多数が参加し、講習会を通じて意識向上や技術向上を目指している。
- ○所属する点訳・音訳団体の活動内容は

点訳・音訳図書を山口県盲人福祉協会、山口県点字図書館などに納入し、全国ネットに登録

- ○個人点訳・音訳の依頼も実施
- ○行政のパンフレットなども点訳(今年度は国民文化祭パンフレット)

これからめざしたいこと

38年間に渡り活動が続いているが、今後も所属している会同士、会員同士のつながりづくりの手助けと、お互いの技術向上の手助けになることを目指していきたい。また、個人からの依頼も増えており、もっと気楽にこの連絡会に依頼できるよう、情報提供を強めるなど、行政との関わりも深めていきたい。





コープやまぐち奨励賞

周防の森プレイパーク子育てさぽーと広場「森もりひろば」

代表者 前上喜代子 (光市)

活動の動機、目的

日々子育てに専念して、時には自由に活動してみたいお母さんの育児休暇時間として、祝日に1 日保育広場を開催し、子育てを支援し、またいろいろな世代の人たちとの交流の場を作ろうと始め た。子供たちを自然の中でのびのびと遊ばすことも目的としている。

活動の内容

- ・0歳児から小学生の子供90人を預かり、サポーター(子供の面倒を見てくれる人)を中学生、 高校生、一般成人から募り、一日保育をしている。年間4回祝日に開催。
- ・ サポーターは毎回60名、スタッフは15人くらいで開催。ベテラン主婦、元保育士、元看 護士、遊びの達人の浅江やろう会、青少年育成アドバイザーなど、幅広い人材を揃え怪我な どにも対応していく。中学生、高校生のサポーター募集にあたっては、学校に依頼し、学校 側からも呼びかけている。
- 開設当初の定員40人から現在は90人に増員、即満員の状況。
- ・ 内容は季節にあわせたもの(栗拾い、たけのこ狩り等の外遊び)、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、お菓子づくり、パン作りなど

これからめざしたいこと

・ 自然の中で、のびのび遊べる子供たちの様子を見て、皆元気をもらっている。参加した子供 たちも集団遊びで、人への思いやり、我慢も生まれてくる様子。今後はさらに、活動内容に 新しいことを取り入れ、スタッフ共々やりがいのある活動をしていきたい。





コープやまぐち奨励賞

宇部市介護家族の会

代表者 折井汲子 (宇部市)

活動の動機、目的

介護している人、介護経験のある人、介護に関心のある人の集まり。寝たきり・痴呆・難病障害 などさまざまな状態の人を介護している中、互いの悩みを話したり、交流・情報交換を行なう。そ の場を通じて、介護者同士の横のつながりを持ち、共感しあい、介護者が情報発信することで、行 政・各事業所・施設とのネットワークを構築し、介護する人、受ける人たちに、安心感が生まれる 協同活動に寄与する。

活動内容

- 介護経験者による介護相談(ふれんど)を月1回、年間約50件 悩みや話を聞いてあげることから始め、内容は市の高齢福祉課や保健師に伝え、対処しても らっている。 相談終了後、受けた内容を持ち寄って反省会を実施。ニーズに応えてサロン形 式で話を聞いてあげることを始めた。
- 介護家族の会を月1回開催
- ・ 情報交換 ・介護者のための料理講習・保健師による健康相談
- 研修 (認知症・介護保険・心の健康・医療、介護に関わる確定申告)
- ・ ミニコンサート (介護者のリフレッシュ)
- ・ 施設見学(グループホーム・特別養護老人施設・介護老人保健施設など)
- ・ 他地区の介護家族会との交流(クリスマス会)
- 介護マップの作成

介護保険関連事業所の所在地や内容・実情がつかめていないという意見の多い状況を考慮して、 市内の各事業所をマップで判りやすくし、利用しやすいように作成。また、各事業所の実情を知 って、個人が望む介護をしていただける施設を選択する一助になれるように作成。

- ・ 介護保険で利用できるサービス(経験者会員からの一口メモで気をつけたいことを添付)
- ・ 施設マップ (介護の種類・内容説明) ・ 素朴な質問・疑問 Q&A
- 会員の声
- ・ 介護相談ふれんど(月1回開催する会員による介護相談)Q&A

など

- その他
- 介護者の健康体操
- 認知症高齢者地域相談支援家族会 研修
- 山口県認知症を支える会連合会に加入

これからめざしたいこと

介護経験者として、悩んでいる人のお役に少しでも立ちたいし、いろいろな活動を通して達成感 が味わえて、会員も生きがいにつながっている。今後は認知度が低いので、民生委員や新聞社な どにも呼びかけて、地域に広げていきたい。サロン形式の相談場所を増やし、ニーズに対応して

いきたい。





コープやまぐち奨励賞 カトレアクラブ

代表者 吉本恵都子 (周防大島町)

活動の動機、目的

健康づくりのため、体操や運動を行っていたが、ハワイ島と姉妹縁組をしていることから、「フラダンス」を始め、輪づくり、健康づくり One For All All For One をモットーに 心身の健康と積極性を培う。会員の元気を地域に広げ、地域も元気になることをめざす。

活動内容

講師に習っての練習を月2回実施。日頃は仲間同士で教えあう自主練習を毎週水曜日に行っている。毎年、数多くの場でフラダンスを披露、元気を広げている。

○ ボランティア活動として、地域の老人施設を慰問。2006年度は3回実施。

老人施設 モミの木

平成病院デイサービス

老人福祉施設慈光荘

○ 地区のまつり、学校祭、夜市、盆踊り、敬老会など2006年度は10回にわたるステージ を披露。

地区懇親会

由宇建材三蒲店オープン

地区荒神まつり

赤石まつり

看護学校第3回学校祭

防府発表会に友情出演

町夜市

地区ふれあい盆踊り

地区敬老会

国民文化祭出演

これからめざしたいこと

地域の皆さんから、いろいろな行事に出演依頼が増え、人前で踊ることの恥ずかしさから、 爽快感に変わり、これからもみんなの元気を地域の人にわけ続けていきたい。高齢者が多いので もっと若い人を巻き込んでいきたい。





コープやまぐち組合員奨励賞 ひだまり CAP やまぐち

代表者 秋本和美 (山陽小野田市)

活動の動機、目的

子どもが弱い立場にいるからといって、一方的に暴力を受ける存在ではないこと、「安心・自信 自由」の基本的人権を持っている存在だということを、子どもと大人に知ってほしいことが動機。 子どもの人権が尊重され、暴力のない社会にすることを目的とする。

活動内容

- CAP (Child Assault Prevention) 子どもへの暴力防止プログラムを①幼稚園 ②小学校③中学校で子どもたちを対象に授業枠をもらって、1クラス単位でワークショップ形式で実施。
- 教職員ワークショップと、保護者ワークショップと地域セミナーを実施し、子どもを支える 大人を増やしていく。

「まずは説明だけ」の電話にも県内であれば、どこへでも伺ってお話をする。正式依頼には、 事前に担任の先生とていねいな打ち合わせを行います。

- 障害のある子どもへの CAP プログラム実施や児童養護施設での CAP プログラム実施
- 月1回の定例会開催、ワークショップも開催
- 2006年度はCAPスペシャリスト養成講座を開催、全国からの受講生と情報交換し、交流会を実施した。

これからめざしたいこと

活動が増えてきたので、事務局を3箇所体制(宇部、周南、その他)へ移行予定。やまぐち県内のすべての子どもたちに CAP を届ける!この夢を実現するため、頑張っていきたい。



